

ミクロネシアにおける水産系残滓処理による養豚用飼料普及プロジェクト (2022年～2025年)

かつお節加工の技術と縁で生まれた協力！

■ 実施団体：

枕崎水産加工業協同組合
(提案自治体：鹿児島県枕崎市)

■ 対象国・地域：

ミクロネシア連邦ポンペイ州

■ 現地カウンターパート

国家漁業公社



■ 協力内容：

水産系残滓を活用した、安定した品質の養豚用飼料を開発し、一般農家に普及する

- ・水産系残滓を活用した新しい養豚用飼料の開発
- ・現地技術者への新しい養豚用飼料の生産技術、検査技術の研修
- ・養豚用飼料の一般農家への普及広報資料作成やPR活動の実施

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・枕崎はかつお節の日本一の産地として知られ、かつお節の原料となる冷凍カツオの多くがミクロネシアで漁獲されており、水産業界ではミクロネシアとの友好関係を築いている。
- ・2017年には、枕崎水産加工業協同組合が、現地でのかつお加工工場の建設に協力。

■ 事業実施の背景：

- ・飼料には、残飯や芋を使用してきたが、生活スタイルの変化や物流の発展により、利便性の高い配合飼料へシフトしている。
- ・輸入の配合飼料に頼らざるを得ない状況で、養豚農家にかかる経済的負担が大きかった。

ミクロネシア国の課題と成果

課題①水産系残滓の活用ができていなかった

成果①水産系残滓処理技術を利用したフィッシュミールを用いた飼料の開発。

既存の配合飼料と比較してたんぱく質などの栄養価も十分な飼料が完成した。

課題②輸入に頼るミクロネシアでは、主流となっている配合飼料の使用が農家の大きな経済的負担

成果②比較的安価で栄養価の高い飼料の利用が広まる。

現地販売業者への営業を強化し、業者を通じて広く一般農家へ周知された。良質な豚の育成にも貢献したことから、農家からの使用満足度も高い評価を得た。

事業の波及効果



現地のフードロス削減にも寄与

- ・近隣水産加工場の加工残滓も養豚飼料に利用し、廃棄物削減や持続可能な資源利用の実現にも寄与。



市民レベルでのスポーツを通じた交流も！

- ・枕崎市民有志により、ミクロネシアでも親しまれているソフトボールの道具を、ポンペイ州スポーツ局へ寄贈した。草の根事業を通じて、スポーツでの交流が生まれ友好関係が深まる。